



Ⓐ

4月テスト

小4国語

解答用紙

※答えは、はつきりと濃く書き、直す場合には消しゴムで完全に消しなさい。また、解答欄からはみ出してはいけません。 ※記号の「ア」と「イ」、数字の「1」と「7」などは区別をつけてはつきりと書きなさい。

⑳総得点 / 100

㉔会場コード(右ゾメ)

⑧区分 1

⑨受験番号 男1 女9

⑩科目 A1

氏名

太枠内に記入しなさい。受験番号は性別番号を○でかこみ、下3ケタを正しく記入すること。

㉑第1領域 * / 16

① 小計 2点 x ()

(5) (1)

① しい

(6) (2)

しい

(7) (3)

7 3

(8) (4)

8 4

㉒第2領域 ** / 20

②③ 小計 2点 x ()

(3) (1)

15 13

(4) (2)

16 14

(4) (2)

① ①

② ②

11 9

(4) (2)

① ①

② ②

㉓第3領域 ** / 28

④ 小計 3点 x ()

(3) (1)

21 19

(4) (2)

22 20

(2) (1)

① ①

② ②

③ ③

18 17

㉔第4領域 ** / 36

④⑤⑥ 小計 3点 x ()

(4) (3) (2) (1)

26 25 24 23

㉕第4領域 ** / 36

⑦ 小計 4点 x 減点 () - []

(8) (7) (6) (5) (4) (2) (1)

② ①

35 33 31 29 28

(3) 30

34

と
い
う
こ
と
。

1

次のそれぞれの文の——線部の、漢字は読み方をひらがなで、カタカナは漢字で書いて答えなさい。

- (1) この引き分けは負けに等しい。
- (2) ボートが波間にただよ。
- (3) この本は親の世代に人気がある。
- (4) 今日はサラダの注文が多い。
- (5) ミズウミと池のちがいを調べる。
- (6) 友だちにうそをつかれてカナしい。
- (7) 兄は歴史のケンキュウをしている。
- (8) 京都にあるジンジャをおとずれる。

2

次の(1)～(4)の文には一つずつ漢字のまちがひがあります。それぞれ(れい)にならつて、①まちがっている漢字一字を文中から書きぬいて答え、②同じ読み方の正しい漢字一字を書いて答えなさい。

(れい) 大声で「はい。」と行った。▽答え ① 行 ② 言

- (1) 体育館で友だちと走っていたら、転んでけがを追った。
- (2) 明日は電車に乗って、新せきに会いに行く予定だ。
- (3) 有名な歌手が歌った局が、世間で話題になっている。
- (4) 父と母は和食がすきだが、ぼくと弟は羊食がすきだ。

3

次の(1)～(4)について、——線部と反対の意味のことばになるように、それぞれの□に入る漢字一字を書いて答えなさい。

- (1) このロープが一番長い。⇕ □ い
- (2) ねだんが高い商品がよいとはかぎらない。⇕ □ い
- (3) ぼくより弟のほうが重い。⇕ □ い
- (4) 店で消しゴムを売る。⇕ □ う

4

次の(1)・(2)の文の□には「は・が・と・を・に・へ」のいずれかが入ります。それぞれふさわしいものを一つずつ選び、書いて答えなさい。(1)・(2)を通して、同じものは二度選べません。

- (1) 今日 □ ① 妹といっしょに公園 □ ② 出かけるつもりだったが、いとこ □ ③ 急に遊びにきたので、出かけるのはやめた。
- (2) 母がカレー □ ① 作るのにたまねぎ □ ② にんじんが足りないと言うので、自転車でスーパーまで買い □ ③ 行くことにした。

5

次の(1)～(4)の文の に入るふさわしいことばを、あとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

- (1) この試合は先攻チームが勝つだろう。
- (2) 失敗するとわかっていて止めてくれなかったのか。
- (3) 君があきらめないと言うなら、ぼくはおうえんする。
- (4) 嵐でもすぎたかのように、部屋がちらかっている。

- ア なぜ
- イ もし
- ウ どうか
- エ おそらく
- オ まるで
- カ 必ずしも

6

(れい) にならって、次の(1)～(4)の文の「」の中のことばを、それぞれいいない言いい方に直して、書いて答えなさい。ただし、「」は書かないこと。

(れい) 外を「見る」。▽答え 見ます

- (1) ぼくは引っこした友だちに手紙を「書く」。
- (2) 山頂から見る景色はとても「きれいだった」。
- (3) このくらいの問題ならばくにも「とけるだろう」。
- (4) 昨日はつかれていたなので本を「読まなかった」。

7

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

《「ぼく（流星）^{りゅうせい}》は、お父さんといっしょに外を歩いています。》

① お父さんは、少し歩いてから軽く走り出した。

学生のころは野球をしていたらしいけど、すっかり運動しなくなったこのごろでは、*メタボが気になるようだ。

まして今日は、唐揚げ^{からあげ}を食べるし。

お父さんのメタボ解消^{かいしょう}のために、ぼくもあとをつけて走った。

ほんの五分ほど走っただけで、お父さんの走るペースが、

※落ちた。

「もう、だめなの?」

後ろから声をかけた。

「いや、ちよつと……流星、先に行ってくれ。」

お父さんは息も切れ切れに言うと、横にそれて道を開けた。

ぼくは前に出た。さつきまで、お父さんの背中^{せなか}を見ながら走っていたので、急に視界^{しかい}が開けた。

【空が明るい。桜^{さくら}の花びらが風に乗って、ぼくの目の前に流れるように落ちてくる。

印刷^{いんさつ}工場の建物^{たてもの}や、清掃^{せいそう}工場のえんとつが遠くに見える。公園

の薄緑^{うすみどりいろ}色の若葉^{わかば}が生いしげる、いちよう並木^{なみき}も。そのずつと先

には山の尾根^{おね}が、光を浴びてくつきりと見わたせる。

風に背中をおされるように、体がぐんぐん前に進んだ。風の中

を走りぬけている、という感覚^{かんかく}だ。】

ひとつ目の橋に着いてふり返ると、お父さんはずっと後ろにいた。

かろうじて走っているようだけど、歩いているのと変^かわらないような速さだ。

「おーい、流星。」

お父さんが手をふっている。ぼくは橋の上で待つことにした。下を流れる川に魚が見える。遠くに赤い橋が見える。

あそこまで行くのは大変^{たいへん}かなあ。それとも、そうでもないのかなあ。行ってみたいな、あの橋まで。(ア)

お父さんは、ゼーゼー息をはきながら、ぼくのところに来た。

「すごいな、流星。速くてびっくりした。全然^{ぜんぜん}ついていけなかつたよ。」

② こっちこそびっくりだ。低学年^{ていがくねん}のころは、ぼくがお父さんに

ついていけなかつたのだから。

「お父さん、ちよつと運動したほうがいいよ。」

「そうだな。その分だと、流星は学校でも速いんだろうな。」

「いや、学校ではおそいほうだよ。」

「本当か?」

徒競走^{とぎょうそう}でゴールテープを切ったことがないことや、リレー選^{せん}手^てに選ばれたことがないことも、お父さんだって知っているはず

だ。なのに、③ 信じ^{しん}じられないという顔をしている。

「今まではそうだったかもしれないけど、これからきつと、すぐ速くなるよ。」

「えー、まさかあ?」

「本当だよ。流星が本気を出せば、運動会でリレーの選手になれるんじゃないか。」

「リレーの選手なんて、なれるわけじゃないじゃん。絶対無理だよ。」
四組には、学年で一番足の速い勇斗がいる。次に速い春輝もいる。

ほかにもサッカークラブの子や野球チームで活躍する子たちもいるから、ぼくの上には雨雲のように分厚い層があつて、ぼくに光があたることはない。

「**4** 絶対無理なんて思っちゃだめだよ。練習すれば、絶対速くなるって。」

お父さんの目は真剣そのもの。本気でそう思っているような。だからぼくも、ほんのちよつとその気になった。(イ)

次の日も走ってみた。走り終えると、頭も体もすぐくすつきりする。あせをかいて、スポーツドリンクを飲むのは最高の気分。

5 春休み中についた習慣は、学校が始まった後も続いた。家に帰って、ランドセルを置いて早見川に行く。

放課後、公園に集まってゲームをしていたことが遠い昔のようだ。(ウ)

早見川には、ぼくと同じように走っている中学生や高校生、大人とも出会う。犬の散歩の人に会うこともある。

みんななにかしらの目的をもって、川ぞいの道に行く。
6 ついにぼくは、赤い橋まで走りついた。

遠くからながめているだけだった赤い橋は、近くで見るとあちこちはげ落ちて、ちつともきれいな赤い色をしていなかったけど、

橋の上に立てたことはうれしかった。(エ)

そして、ちよつと欲も出てきた。

リレー選手になりたい。

選考会は連休明けだ。

〈新井けいこ「リレー選手になりたい」より〉

(注) メタボIIお腹まわりに脂肪がつくことが主な原因となる生活習慣病。メタボリックシンドローム。

(1) 線①「お父さんは、少し歩いてから軽く走り出した」について、次のそれぞれの問いに答えなさい。

① お父さんは何のために走っているのですか。ふさわしいことばを本文中から五字で書きぬいて答えなさい。

② この日の場面は本文中のどこまで書かれていますか。終わりととしてふさわしいものを、本文中の(ア)～(エ)から一つ選び、記号で答えなさい。

(2) ※ に入るふさわしいことばを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ずっしりと イ がくんと

ウ ゆったりと エ ちらりと

(3) 本文中の【 】の部分での「ぼく」の説明としてふさわしいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 周りの景色をじっくりと見て楽しむために、少しスピードを落として走っている。

イ 歩いてくる向かい風に負けないように、一步一步力強く足

を前に出している。

ウ 周りの景色に夢中むちゆうになりすぎて、右に左にふらふらしながら走っている。

エ 周りの景色を見たり、風の気持ちよさを感じたりしながら、どんどんと先に進んでいる。

(4) — 線② 「こっちこそびっくりだ」とありますが、「ぼく」はどういうことにびっくりしていますか。次からふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア お父さんが「ぼく」と走るのを楽しみにしていたこと。

イ いつものまにかお父さんより速く走れるようになったこと。

ウ お父さんが「ぼく」の足の速さを知らなかったこと。

エ お父さんと走るのが低学年のとき以来いらいだったこと。

(5) — 線③ 「信じられないという顔をしている」とありますが、お父さんはどういうことが信じられないのですか。「〜ということ。」という形で、二十五字をこえないように（、や。も字数に数えます）書いて答えなさい。

(6) — 線④ 「絶対無理なんて思っちゃだめだよ。練習すれば、絶対速くなるって。」とありますが、このときのお父さんの説明としてふさわしいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「ぼく」が速く走れるようにならないと決めつけていることにはらを立て、きびしくしかっている。

イ 自分より速い人にもうとしない「ぼく」の気持ちを理解しながらも、今より成長せいちょうしてほしいと願ねがっている。

ウ 「ぼく」が必ず速く走れるようになると思っていて、「ぼ

く」が自信を持てるようにはげましている。

エ 速く走れるようになるかはわからないが、とりあえず「ぼく」に前向きになってほしいと思っている。

(7) — 線⑤ 「春休み中についた習慣は、学校が始まっても続いた」とありますが、走る習慣がつく以前の「ぼく」は、放課後をどのように過すしていましたか。ふさわしいことばを本文中から十五字で書きぬいて答えなさい。

(8) — 線⑥ 「ついにぼくは、赤い橋まで走りついた」とありますが、実際じっさいに赤い橋までたどり着いた「ぼく」の気持ちとしてふさわしくないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 思っていたよりきれいなものではないな。

イ ここまでたどり着いたことはすなおにうれしい。

ウ 次はどこまで走るのを目標もくひょうにしようかな。

エ どうせならリレーの選手に選ばれたい。

(これで問題は終わりです)